

満足度
100%!

令和5年度 人的資本経営支援事業 第1回研究会(ワークショップ)レポート

エンゲージメントを高めよう！ ～HRテックの活かし方～

◆日時:令和5年8月25日(金) 14:00～17:00

◆場所:東京都中小企業振興公社 秋葉原庁舎3階



【第1部 講師】

ホワイトドア社会保険労務士事務所代表 田邊 良学 氏

【講師の声】

HRテックは、中小企業にとって強い味方になります。今回得られた知見を活かし、経営者の想いを伝えて実践するのみ！改革を継続すれば必ず道は開けます。



【第2部 ファシリテータ】

人的資本経営コーディネータ 清水 秀城 氏

【ファシリテータの声】

参加企業の皆様が、組織の現状課題とあるべき姿を主体的、積極的にシェアできる場、共創の場の必要性を改めて感じ、手ごたえを感じることができました。組織は違っても同じような悩みを共感できたことで励みになり、人的資本経営にも取り組んでいきたいというお声があったそうです。

自社に役立つ知見やヒントを得ることができて、新たなネットワーク構築につながりました！



～ 9社の方にご参加頂きました ～

～ プログラム ～

<第1部> 講演:HRテック×中小企業の人的資本経営
人的資本経営を踏まえ、中小企業ならではのHRテック導入課題を含めて貴重なお話を聞くことができました。参加者からも「HRテックが組織活性化に活用できる事を知った」との声を頂きました。



<第2部> グループワーク:(テーマ)組織活性化はどうあるべきか
参加者が4グループに分かれて「組織の現状課題」と「組織の理想の姿」をテーマに活発な意見交換を行いました。その後、グループ発表により、学びを共有しました。



<第3部> エンゲージメントサーバイツールのご紹介 ProFuture株式会社

【参加者の声】

- ・ひとつひとつがとても良い内容でした。
- ・時間が足りないと感じるくらい活発に意見交換できました。
- ・同じ悩みが共有できたことで、励みになりました。
- ・ワークショップはリアル対面で会話が弾むのを再認識できました。

満足度
100%!

令和5年度 人的資本経営支援事業 第2回研究会(ワークショップ)レポート なぜこの時代に新卒採用が出来るのか ~雇用主ブランディング~

◆開催日時：令和5年9月4日(月) 13:30~16:30

◆開催場所：(公財)東京都中小企業振興公社 秋葉原庁舎

【講師】



エス・イー・エス株式会社
代表取締役
青山 秀一氏



公益財団法人東京都中小企業振興公社
コーディネータ 清水 秀城氏(インタビュアー)



株式会社佐藤製作所
常務取締役
佐藤 修哉氏

清水CD
コメント

清水CD
コメント

清水CD
コメント

＜Part1＞事例企業講演

各種受賞歴や認定取得等、雇用主ブランディングに資する積極的な取組を行う2社から、貴重なお話を伺うことができました。

青山社長からは、沢山の具体的な自社の取組をご紹介いただき、雇用主ブランディング、インナー、アウターブランディングのお話の中で、理念の浸透（インナーブランディング）エンゲージメントの重要性をお伝えいただきました。「全ては笑顔の為に」を経営理念の軸として浸透を図っておられます。

佐藤常務からは、古い町工場、高齢化に対して孤軍奮闘されながらも、笑顔で楽しく働ける職場を目指して、新卒女性採用をゼロからスタートし、徹底した自社分析の上でインターンシップを行い、結果としてベテランの職人が若手新卒社員が共感する個からチームへの風土改善に繋がる事例をお話いただきました。

＜Part2＞事例企業インタビュー

エンプロイヤーブランディングの概念の整理解説をしながら、ご参加の皆様からは「賞を取ることが目的ではなく、実践していることが賞に結び付いた」というお話を伺うことができました。

＜Part3＞ワークショップ

3つのテーマから参加者が好きなテーマを選んで、職層に囚われず、講師と一緒に膝を突き合せてアットホームなディスカッションができました。

【テーマ】①学生に響く自社のPRの方法 ②自社に合った学生の採用および定着の方法
③学生に響くインターンシップのカリキュラムについて

異業種の経営者、人事担当者がテーマについて対話の意見交換を通じて、「他社の取組を参考に自社で活かしていきたい」「明日から頑張っていきたい」という声が印象的でした。



ざっくばらんに意見
交換ができ、企業同
士のネットワークも
広がりました！

【参加者の声】 13社の皆様にご参加いただきました！

- ・通常の業務では出会えない企業の皆さんと出会える良い機会だと感じました。
- ・また業種が違って共感できる課題や思いがあるので、勇気づけられます。
- ・グループディスカッションで率直に意見交換できたのが、大変良かったです。

出席率
満足度
ともに
100%!

令和5年度 人的資本経営支援事業 第3回研究会(ワークショップ)レポート

新人交換研修を通じた社外人材との学びあい ～中小企業における越境学習の実践と可能性～

◆日時:令和6年2月28日(水) 13:30～16:30

◆場所:東京都中小企業振興公社 秋葉原庁舎3階

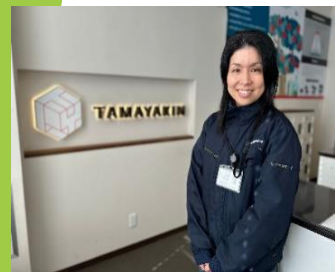
【第1部 事例企業講演と対談】



講師:株式会社ナガセ 代表取締役社長 長瀬 雄一郎 氏

【講師の声】

『“和” 人脈づくり 人づくり そして評判づくり』を理念に、個性を生かした調和を意識し、経営に取り組むことを大切にしています。
『手業の最後の砦になる』をビジョンに、ナガセの誇るべき技術の若い世代への継承や、働く人の豊かさを追求しています。



講師:多摩冶金株式会社 総務グループ長 平岡 恵美子 氏

【講師の声】

『「100年企業」を目指して人材磨きと未来人材の確保』を人事理念に、『「内定」はゴールではなく「始まり」』と考え、将来を見据えた価値観を重視した採用を行っています。
中小企業だからこそ、それぞれの社員の強みや特徴をしっかり把握し、個別に柔軟に育成できると考えています。

【第2部 ワークショップ】



テーマ「自社で交換研修に
取り組む際の可能性と課題」

～11社の皆様にご参加頂きました～



【参加者の声】

- ・新しい研修手法について、大変勉強になりました。
- ・組織だった活動(交換研修で自主性を養う等)が必要と感じました。
- ・自走する仕組み作りの必要性など多くの学びと気づきがありました。

～ プログラム ～

<第1部> Part1 事例企業講演

両社の経営理念や人的資本経営につながる人材育成の重要性、研修やOJTの取り組み等について、実践的かつ貴重なお話を聞くことができました。

Part2 対談(事例企業インタビュー)

両社で継続実施している「新人交換研修」を通じて、越境で学び合うことが身近に感じられる先進事例を共有頂きました。導入の経緯をはじめ、社内コミュニケーションの活性化につながる効果など、具体的なエピソードを交えた貴重なセッションとなりました。(インタビュアー:人的資本経営コーディネータ 清水 秀城 氏)

<第2部> グループワーク

参加者が3グループに分かれて「自社で交換研修に取り組む際の可能性と課題」をテーマに膝を突き合わせた座談会を行いました。経営層や担当者など、様々な視点で抱える悩みや課題を開示しながら他社と活発に意見交換を行った後、出席者全員から一言コメントを発表する流れで、学びのシェアを行いました。



令和5年度 中小企業人的資本経営支援事業【大学連携】レポート

公社では、中小企業と大学が連携して、[双方の学び合いの機会を創出](#)する下記の支援を実施しています。
令和5年度は、2校の大学と中小企業延べ7社が様々な連携により、取り組みを実施しました。

ワークショップ（大学連携）の開催目的について

1. 中小企業が越境による「学びのシェア」を体験しながら、組織的に「人的資本経営」に取り組みやすい環境を作っていく。
2. 中小企業と大学や企業間におけるネットワーク構築の機会を創出していく。
3. 学生に対して、中小企業に関する興味や関心、知識を得る機会を創出することで、中小企業におけるビジネスの在り方、働くことの意義や理解を醸成していく。

令和5年度の取り組み内容

- ① 中小企業の採用活動に関して学生と企業間で意見交換し、学生が就活者視点でPR策を提案。
- ② 中小企業が新規事業開発プロセスを学生にレクチャーし、学生とともにビジネスモデルの立案を実施。
- ③ 中小企業が学生に向けて自社紹介やキャリア（働くこと）について講演授業を実施。
- ④ 学生が中小企業を訪問し、工場見学により現場を体感するとともに経営者や従業員と意見交換を実施。

参加企業からの声（アンケートより抜粋）

- ・ 自社が若い世代からどのように見えているのか、[何が強みとなっているのかを知る良い機会](#)になった。
- ・ 学生に対して自社の特徴を伝えることの難しさを肌で感じた。[今後の情報発信にあたり有益](#)であった。
- ・ 大学との連携を通じて多くの学びがあった。[社員にとっての育成の場](#)であると理解している。
- ・ 多くの学生が自社に興味や関心を持ってくれた。大きな励みであり、[採用活動のヒント](#)にもなった。
- ・ [大変学びのある貴重な機会](#)であると考えており、積極的に活動した。次年度も宜しく願いたい。
- ・ 学生の発表は、役員会で共有化する。[学生の視点と意見は大変参考](#)になった。
- ・ 会社の困りごとと学生の勉強とのマッチングで、[Win-Winな取り組み](#)である。

